

代表者会議【資料２－３】

令和６年度 相談支援実施状況（令和６年４月～令和７年３月分）

事業所名：茅ヶ崎市社協障害者生活支援センター

I 相談利用者の状況

相談形態	電話	来所	訪問	その他	月別延べ件数計
	2,389	357	312	486	

3,544

相談者	本人	家族・親戚	その他機関等	月別延べ件数計
	917	684	1,943	

3,544

地 域	茅ヶ崎	寒川	その他	実人数
	218	0	2	

220

障害種別	身体	知的	精神	発達	高次脳	その他	実人数
	61	66	76	7	1	9	

220

II 対応事業別の実績

事業項目		年間相談計（件）
(1)市町村相談支援機能強化事業		1,923
(2)障害者相談支援事業		1,621
(内 訳) ※重複あり	(ア)福祉サービスの利用援助(情報提供、相談等)	1,480
	(イ)社会資源を活用するための支援	15
	(ウ)社会性活力を高めるための支援	59
	(エ)ピアカウンセリング	0
	(オ) 権利の擁護のために必要な援助	13
	(カ)専門機関の紹介	3
	(キ)上記以外の相談	51

Ⅲ 相談の傾向や課題、その他の取り組み状況など

【相談支援】

① 相談の傾向や課題

傾向)

- 全体の相談実人員は昨年より増加している。相談者の障害種別としては、知的障害、精神障害の相談が増加している。
- 障害福祉サービス利用支援のほか、必要に応じて医療機関や施設等への同行支援、緊急対応の支援なども含め広く相談に対応した。
- 中重度の方を対象とした施設やグループホームに入所/入居したものの、入所/入居後に課題が生じ、本人や家族、関係機関のフォローが継続して必要なケースは引き続き多い。
- キーパーソンとなる方が不在もしくは遠縁、判断力が難しいなど、世帯全体としての課題がある家庭が増えている印象がある。
- 複雑性 PTSD や鬱の方など、傾聴や心理的な関わりを求めている相談も引き続き多い。
- 緊急時の短期入所受け入れ先を心配される当事者、ご家族は多くいる。地域生活支援拠点の機能の充実も引き続き求められている。

課題)

- 施設入所やグループホーム入居、短期入所の利用を検討される相談は多いが、重度障害のある方、行動上の障害がある方、医療的ケアが必要な方などは、利用者にとっての選択肢は少なく、支援の質の担保にも課題がある。
- 転居や諸手続き、院内付き添いや同行、ゴミ屋敷状態になった世帯の片づけなど、制度のはざ間をどのようにして埋めていくかは課題である。
- 薬物依存などの触法ケース等、障害分野以外のサポートが必要なケースも増えており、多問題ケースについての情報や課題の整理が必要である。
- 不適切介護など、虐待の恐れがあっても顕在化していないケースもあるのではないかと懸念される。相談員の質と量の担保が必要である。
- 「有事に備えた繋がり」の維持」「問題発生時の対応」が主な関与の目的になりがちで、生活の質を高める支援や、前向きな自己実現の支援を求める利用者の期待に応えきれていない状況が生まれている。
- 金銭管理や金銭トラブル、病識がない方などの相談も増えており、介入や課題解決に時間を要したり他職種との連携が必要なケースも多くある。

② その他の取り組みの状況など

相談活動を通じた課題の把握、社協の機能を活かした課題解決や提案的な取り組み等の視点で、試行的要素も含めた事業も展開している。

(1) 障害者の余暇支援・自立支援を目的としたイベント開催／保護者のレスパイト支援

- 一般向けとして発達特性と多様性について理解を深める講演会「みんなと違って大丈夫～虹色な子どもたちの発達を理解する～」を開催した（3/20 開催 74 名参加）。
- 余暇活動の場としてボランティアグループ小さな手が運営する「サロンよりみち」の開催を支援。年 11 回開催し、延べ 99 名が参加された。
- 茅ヶ崎市視覚障害者協会より依頼を受け、スマホ講座の開催を支援した（基本編 11 名 応用編 8 名参加）。

(2) 精神保健ボランティア推進委員会

- 市内の精神保健関係機関、行政等の参加で組織した推進委員会を設け、地域での精神障害の理解促進とボランティア育成を目指した検討を行っている。令和 6 年度は精神保健ボランティア推進委員会を 3 回開催し、精神保健関係機関の相互理解を目的とした見学会を開催した（1 月～2 月）。

【その他】

- 第 5 回精神保健ボランティアパートⅡ修了生と、就労継続支援 B 型事業所が作成する「茅ヶ崎・寒川 精神保健関連施設マップ」の作成・配布にあたり印刷代の負担、情報提供、振分け作業等への支援を行った（2800 部作成）。